

なつやすみ★おススメ本

2022

夏によむよむ

長い夏休み！ 何にチャレンジする？
図書館で本を借りて、読書もおすすめ！
本の世界で「自分時間」を過ごしてみない？

ティーンズ版
(中学生向け)

東近江市立図書館

- 八日市 (0748-24-1515)
- 永源寺 (0748-27-8050)
- 五個荘 (0748-48-2030)
- 愛東 (0749-46-2266)
- 湖東 (0749-45-2300)
- 能登川 (0748-42-7007)
- 蒲生 (0748-55-5701)



『アイドルが好き！』

イノウエミホコ/作 くもん出版

14歳のタマキはK-POPアイドル「ノババ」の大ファン。彼らに少しでも近づきたいと、韓国への短期留学に申し込みます。友達の花子はタマキの熱意が理解できないながらも一緒に留学することに。そこへSNSで知り合ったノババファンのユマも加わって……。



『あしたの幸福』

いとうみく/作 理論社

ある日パパが事故で死んじゃって、中2のあたしは顔も覚えてない母親と同居することになった。しかも、パパの彼女も一緒に住むことになって、まさかの3人暮らしだ。つらいことがあっても、よく知らない相手でも、肩を寄せ合ったらあしたは幸せな日になるのかも。

『はるかな旅の向こうに』

エリザバス・レアード/作 評論社

シリアの古都ポスラに住む少年オマルの夢は、いつか自分の店をもつこと。でも12歳のとき、なにかもがかわった。内戦が始まったのだ。政府はデモ行進の人々に銃を向け、家には爆弾が落ちてきた。オマルたち家族は安全な地を求め、生まれ故郷を後にする……。



『平安女子の楽しい！生活』

『平安男子の元気な！生活』

川村裕子/作 岩波書店

古文に出てくる平安時代の女子と男子って、のんびり優雅なイメージで遠い遠い世界の人たちみたい。けれど、モてるためにおしゃれをしたり、進路に悩んだり、けっこう今の私たちと同じようなところも。そんな昔の「大先輩」たちの日常をのぞいてみると……。



『シリアの戦争で、友だちが死んだ』

桜木武史/作 武田一義/まんが ポプラ社

桜木さんは、戦争の現場を写真と文章で伝えるフォトジャーナリスト。新人のころ、内戦が何年も続いている国・シリアに潜入して、なんとか取材を行い、同年代の人々と友人になりました。しかし数年後、桜木さんはつらい事実を知ります。



夏によむよむ 2022
中学生向け



どろ
『泥』

ルイス・サッカー/作 小学館

いじめっ子から逃れ、立ち入り禁止の森に迷い込んだタマヤたち。そこにあったのは不気味な泥の塊。それは、触ると発疹や水ぶくれができ、次々に人に感染してしまう危険な微生物でした。知らずにそれに触ってしまったタマヤ。そして、いじめっ子のチャドも……。



『ボーダレス・ケアラー』

やまもとえつこ
山本悦子/作 理論社

大学の夏休み、俺は一人暮らしのばあちゃんの様子を見るため、ばあちゃん家で暮らすことに。翌朝ばあちゃんは、亡くなった柴犬の「豆蔵」と散歩に行くと。慌ててばあちゃんを追っかけ、空のリードを握ったその時、奇妙な手ごたえを感じた。



『ワタシゴト 14歳のひろしま』

なかざわしょうこ
中澤晶子/作 汐文社

修学旅行の行き先は広島。75年以上前のことを想像するなんて難しい。でも、あの頃、あの街にもたくさんの14歳がいたんだって。遺されたものが教えてくれる彼らは、現代のボクらと全然ちがうのだろうか。

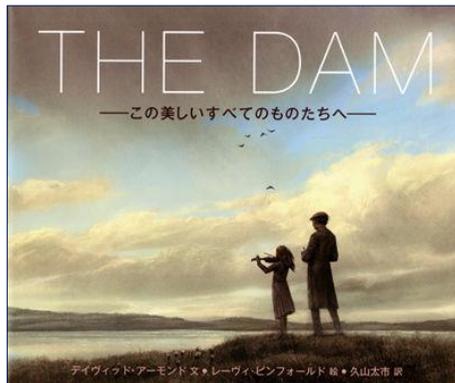


★続編『あなたがいたところ』もあります

『ポプラの秋』

ゆもとかすみ
湯本香樹実/作 新潮社

父が亡くなり、大きなポプラの木が庭にある「ポプラ荘」というアパートに引っ越してきた千秋。小学校に行けず、大家のおばあさんと過ごすようになった千秋は、おばあさんが「あの世の郵便屋」だという話を聞いて、あることを思いつきます。



『ダム —この美しいすべてのものたちへ—』

デイヴィッド・アーモンド/作
レーヴィ・ピンフォールド/絵 評論社

ある朝、父と娘は誰もいなくなった谷を訪れた。ここはダムに沈む谷。去っていったもの、消えてゆくもの、そしてやがて来るものたちのために、ふたりはヴァイオリンを弾き、歌をうたい、ダンスを踊る。実話をもとにした、音楽が聞こえてきそうな絵本。



『クジラの骨と僕らの未来』

なかむらげん
中村玄/作 理論社

巨大なクジラを解体し、骨格を研究する中村さんが、骨に興味を持ったのは中学生の時。なんと、飼っていたハムスターのお墓を掘り起こし、自分で骨格標本を作ったというのだから驚きです！生き物が大好きだった少年が、「好き！」を突き詰めて研究者になるまでの記録。

